

比率と印象の関係性

E1 班

宮城県仙台第三高等学校

世界各地で称賛を受けている芸術的作品の多くには、とある共通点がある。比率、さらに細かく述べると『黄金比(1:1.6)』が当てはまることである。加えて、類似したものに『白銀比(1:1.4)』という比率も存在している。何れも人々に好印象を与える形に最も近い形、とみなされている。しかし二つの比率の効力が果たして前述の通りであるのか、その効力に疑問を抱き、実証へ乗り出した。結果として、残念ながら上記の効力を、論理性を以て証明することはできなかった。しかし同時に興味深い結果も得ることができた。世間一般において好印象を与える形に最も近いとされている黄金比よりも白銀比の方が、より好印象を与える形に近い、という意見が多かったのだ。今回行った実験は対象者全員が日本人であったこと、加えて、白銀比が日本古来のものであることから考察するに、好印象を与える形に最も近い形は、国別で異なってくるのではないかと考えられる。

1 背景

芸術の問題に切り込むにあたり、初手としてモナ・リザやミケランジェロを始めとした、世界各地で称賛を受けている芸術的作品の多くの相違点を調査することとなった。結果、発見できた主な共通点が『比率』であった。詳しく述べると『黄金比』である。世間一般において、黄金比は人々に好印象を与える形に最も近い形とされている。またこの効能に類似しているとされる『白銀比』という比率が存在している。こちらの比は日本名画や人気キャラクターと呼ばれる存在に当てはまる。しかしながら、いずれの効能を証明する論理的証拠は発見できなかったため、この調査および解明のため今回、研究の題材として扱うに至った。

2 材料と方法

今回、上述の調査のためにとある実験を行った。実験内容、対象者は以下の通りである。

・実験内容

- ①既存のキャラクターや絵を無作為に数枚選出する
- ②抽出した画像の縦横比をそれぞれ黄金比(1:1.6)、白銀比(1:1.4)、正方形(1:1)の比率の三種類に変形させる。
- ③②で作成した画像を実験対象者に見せて、一番好印象を抱いた画像を一種類につき一枚ずつ選出させる。

- ・対象者：仙台第三高校生徒 50 名

3 結果と考察

今回行った実験の結果、使用した三枚の画像のいずれにおいても、白銀比に変形させたものが票を一番多く獲得しており、以上より、白銀比が好印象を与える形に最も近い、という結果が得られた。残念ながら今回の実験結果は、『黄金比・白銀比の効力の論理的証明』を達成するための論理的証拠にはなり得ない、という結論に達したため、研究開始当初の疑問を解明することはできなかった。しかしながら、当初の予定からはそれる形とはなっていないが今回の実験結果からは興味深いデータも得られた。世間一般的に『好印象を与える形に最も近い形』という認識のなされている黄金比が今回の実験ではあまり票を集めていなかったのである。白銀比が古来からの様々な日本名画に当て嵌まってきたこと、加えて今回の実験の対象者が全員、日本人であったことから考察するに、『好印象を与える形に最も近い形』は国によって異なるのではないかと考えられる。これを踏まえた展望として、次回以降は外国人も対象にして実験を行ってみたい。

【参考文献】

<https://www.aura-office.co.jp/blog/golden-ratio/>

<https://www.muta-lab.org/research/chape/>

『「美しい顔とは」どんな顔か』 牟田 淳 著